

天神祭奉納2024日本国際ドラゴンボート選手権大会 競技規則

- ①大会規則は一般社団法人日本ドラゴンボート協会2024年度競技規則・規定による。
- ②競技参加条件は、2024年1月1日現在満15歳以上でなければならない。
- ③競技は、雨天決行が原則であるが、競技委員長は、選手の安全等を考慮し、レース種目・時間の変更、人員の減員、中断・中止等を決めることができる。この決定は最終のものである。
- ④競技種目は、オープン、混合、シニア、スモールの4種目とする。「混合」は男女いずれも8名以上の乗艇を必要とし、「オープン」「スモール」は男女の数に一切の条件を付けない。JDBA2024年度競技規則第3条5項-3に重複乗艇を禁止しているが、今大会の限定措置として、自己の責任において他のカテゴリーとの重複乗艇を可とする。但し、レーススケジュールには配慮しない。
- ⑤競技人数は、スモールを除き1クルー22名(太鼓手、舵取り各1名、漕手20名)とするが、欠員のある場合は太鼓手、舵取りを含め、18人以上でなければならない。スモールは1クルー12名(太鼓手、舵取り各1名、漕手10名)とし、漕ぎ手は8人以上でなければならない。
- ⑥レースに必要な、艇、パドル(マイパドル使用可)、太鼓、舵は主催者が用意したものを使用するが、競技に支障あるか否かを出艇前に点検することは、選手の義務である。出艇までに、競技委員会が重大な支障があると認めた場合、用具変更を認める場合がある。マイバチ・マイパドルの検定は、大会当日に予選終了時まで行う。海外チームは、IDBFの刻印(202A)のあるパドルのみ使用を認める。
- ⑦クルーは招集場にて資格審査を受け、配艇係が割り当てた艇に乗船しなければならない。
- ⑧競技レーンは互いに平行し、各クルーは決められたレーンの中央を進行しなければならない。違反の場合タイムペナルティを取る場合がある。レーンを外れ、他船の航行を妨害したクルーは「失格」となる場合がある。他のクルーの水路妨害や衝突等を避けるため、レーンを外れた艇の責任は問わない。
- ⑨100m地点までの「衝突」「転覆」「水路妨害」などの「事故」については、再レースを行う場合もあるが、それ以降の「水路妨害」「衝突」「転覆」「コースアウト」等による再レースは競技運営時間上極力おこなわない。100mを超えて衝突があった場合は、その原因を起こしたクルーは「失格」となる場合がある。
- ⑩乗艇は、出場登録した選手のみが乗艇できる。違反した場合は失格とする。選手の交代員は大会開催週の7月8日(月)17時までに提出すること。
- ⑪競技中、またはその前後に他の選手や役員に対する暴言、暴行、マナーに反する言動した選手は、失格、退場を命じる場合がある。その責任は個人のみならず、チームに及ぶ場合もある。

◇安全対策・競技規則

協会、主催者とも、安全の確保については、真剣に対応策を考えております。選手の皆さんも、自分のこととして考えてください。

①安全主任（指揮者）

乗艇中の転覆、衝突事故に備え、太鼓手と舵取りの2名を安全主任（指揮者）と決める。また、メンバーはその指示に従って行動すること。自己管理を徹底することにより事故を防止できるので、競技出場予定者は、体調管理、心の準備をしておくこと。特に、給水、トレーニング、ウォームアップ、睡眠、飲酒、喫煙、ルール等を熟知し遵守すること。また、競技開始以前から終了までの間、選手は飲酒厳禁とし、クルーの中で1人でも飲酒が発見された場合はチームを失格処分とする。会場内は所定の場所以外全面禁煙とする。各チームの代表者（監督又はキャプテン）は「船長」として安全対策を各選手に徹底しなければならない。

②バディシステム

万一の事故に備え、クルーは乗艇前、漕席を決め、隣席同士でバディを組み、前後の選手も確認しておき、互いの無事存在を素早く確認できるようにすること。

③転覆時の対応

本大会で使用する艇は、安全性は高いが、万一転覆等で全員が落水したときは、チーム安全主任は全員の指揮を執ること。艇自体に浮力があるので、艇につかまり（**全員艇から離れてはならない**）、全員の安全を確認し、救助を待つこと。障がい者が乗艇しているチームは、安全ベルトの脱着をクルーが手伝わなければならない。

④フローティングベスト（FV）の着用義務について

JDBAが主催、主管、後援する「ドラゴンボート競技大会」に於いては全ての参加選手は、フローティングベスト（チョッキ式・首掛式）を着用しなければ乗艇を認めない。使用基準として、浮力は、7kg以上のフローティングベストしか使用してはならない。膨張式（自動膨張式・手動膨張式）の使用は認める。但し、ウエストベルト式、ポーチ式のフローティングベストの使用は一切認めない。着用義務違反チームは最下位となる。

<服装規定>

競技に着用する衣類については、安全対策上「肘（ひじ）・膝（ひざ）」が完全に露出する衣類の着用を推奨する。刺青、タトゥーは露出しないように、長袖等で覆うこと。

⑤マイパドル・バチの使用

【JDBA】公認検定に合格したマイパドル・マイバチの使用（レース中は1本でも2本でも可）を認める。マイパドル・バチの公認検定申請は、大会当日午前7時30分から予選終了時まで検定場所（南天満公園内受付テント）で受検すること。それ以外では行わないので注意のこと。海外チームは、IDBFの刻印（202A）のあるパドルのみ使用を認める。

⑥クルーからの合図

レース中事故が発生し、レースを続行できない場合は、漕手の多数がパドルを頭上に揚げ、審判に合図する。チーム安全主任の指示で必要な処置を行う。状況により、停艇もしくは大会役員の指示により乗艇場等へ回航する。この処置を怠ったり、審判の停艇合図を無視し、レースを続行したりしてはならない。失格の対象とする。

⑦審判艇からの合図

審判艇からの停艇合図等はホイッスル、エアーホーンで行うので出場クルーはこれら器具の使用を禁止する。

⑧レース続行

落水者発生の場合、クルーのみの力で自艇に戻り負傷の有無を確認し、審判の指示があればレースを続行してもよい。

⑨救急処置

大会会場内で、選手が救急を必要とする事態発生の場合、競技本部に届け、本部は必要な処置（救急車の手配等）を行う。クルーメンバーは必要により、事故者の親しい友人、家族の中から、付き添い者、当面の資金等手配すること。

⑩損害賠償の請求

故意に艇を転覆させたり、貸与パドルや艇を破損させたりした場合、そのチームはその場で退場処分とし以後の出場を認めない。またこの行為による損害について、主催者はチームに損害賠償を求める。退場等の処分はチーム及び個人にも及ぶものである。

⑪失格・退場

レース中、いかなる理由でも選手間や役員への暴力行為、暴言、公序良俗に反する行為を禁止する。本協会と競技会の品格を汚す言動や不正な行為があった場合、当該チームにペナルティカード（イエロー・レッドカード）を発行し、失格・退場また除名処分とする場合がある。その処分は、個人のみならずチームにも及ぶ場合もある。

⑫抗議

判定に異議ある時は、各クルーのキャプテンまたは監督のみが抗議できる。成績発表後15分以内に競技委員会委員長宛ての文書（書式自由）と供託金3万円を添えて、競技本部に申し立てること。抗議を受けた場合は、審判長を中心にレース結果を精査し、できるだけ早く回答する。抗議が認められれば、そのレースの順位変更、再レース等を各チームに命じることがある。また、供託金は払い戻す。抗議が認められないときの供託金の返金は行わない。この供託金の処置は、主催者で別に決める。

⑬提 訴

競技委員会の判定に対する抗議は、監督がレース結果の決定通知を受けて20分以内に「上訴審判」に行うものである。その必要事項は、前項に準じ、さらに供託金3万円を必要とする。「上訴審判」の決定は一審最終である。

以上の判定があった際、この結果を不服として、次レースの棄権や表彰式のボイコットをしたときは、全成績発表を最下位、失格処分（チーム名抹消）とし、当該チームの次年度以降の出場を認めない。この処分は、個人のみならずチームにも及ぶものとする。

⑭第17回DBF世界ドラゴンボート選手権代表選考について

20人漕ぎのオープン、混合出場のA団体登録上位チームにポイント付与する。

⑮免 責

主催、後援、主管、特別協賛、協賛、協力の各団体は、参加者に対し、応急処置以外の責任は負いません。健康と怪我等の防止に留意し、各自の責任でご参加ください。また、安全上ペースメーカー装着者は参加できません。また、①心臓に問題がある②運動中に胸の痛みを感じたことがある③めまいのためふらついたり気を失ったことがある④血圧、心臓の薬を飲んでいる⑤骨や関節に問題がある方は必ず事前に医師の診断を受けてその指示に従ってください。

また、会場内での破損、紛失、盗難などに対しても一切責任は負いかねますので、貴重品は身につけるなど手荷物の管理には、充分の配慮をお願いいたします。

※本イベントで撮影した写真などを、主催者以下関係各団体がそれぞれ発行する新聞、広報誌、SNS、インターネットの記事や広告、または放送に使用する場合がございましたので、各チーム、各選手はあらかじめ了承の上、出場してください。

ドラゴンボート競技参加の皆様へ

(一社) 日本ドラゴンボート協会競技委員会より

☆一部競技規則と重複しますが、安全で、活発、楽しいレースを行うため、よく理解しておいてください。

(一社) 日本ドラゴンボート協会 競技委員長 長谷川 伸

◇審判組織と役割

競技中の審判組織と役割は次のようになっています。

●発艇員

スタート位置にて発艇の合図をします。フライングの監視はこの部署の専管事項です。最初にフライングがあった場合は「肉声」で停船を指示し、再レースを行います。2回目はレースを続行させ、フライング艇は当該レース最下位とします。

※スタート時にパドルを水中に浸けても違反とはなりません、「Attention」以降にパドリングするとフライングの対象となります。

※スタートの手順：チーム紹介（スタート地点に移動している間）→ドラ→（全艇を並べる合図、全艇スタートラインへ）→（艇の調整）→「アーユレディー」→「アテンション・ゴー」

※スタート1分前のコールはありません。

●100㍎審判員

スタート後、100㍎以内で「衝突」「転覆」が発生したか否かを判定します。発生時は、発艇員、水路審判は赤旗を揚げ、左右に大きく振り合図します。太鼓手や舵取りは、この地点での確認をしてください。無事全艇通過後は白旗をあげます。

●水路審判員

水上のボート上で、競技中に規則が遵守されているかを監視します。スタート時はレーンの後方または側方に待機します。100㍎地点までは100㍎審判と協力し、「衝突」「転覆」があった場合は「赤旗」をあげ、全艇停船させ再レースの通告などを指示します。

100㍎地点からゴール地点まで規則違反があれば審判長に「赤旗」を振って合図し、レース終了後、審判長に状況を報告する。尚、競技中のレース艇に不測の事態が発生した時は、安全委員と協力し事故発生クルーに対して安全上の指示を行います。

※シーブドッグ艇がない場合は、その役割も担います。

●決勝審判員

順位の判定をします。計時員の計測した記録、順位を確認し、審判長に回送します。

●写真判定（ハイスピード・カメラ）

決勝線延長上に高性能のハイスピードカメラを設置して全艇のゴールを撮影し、着順判定を補助します。

●フライング・コースビデオカメラ（スタート）

スタート時のフライングや違反行為の確認とレース中のレーン侵害等のトラブルに対処するため、スタート地点にビデオカメラを設置します

●上訴審判

判定や競技運営上、規則で判定できない高度な判定を行います。失格、除籍等の最終判定機関です。

●羊犬艇（シーブドッグ艇＝モーターボート）

水路外ゴール地点付近でレース運営の円滑をはかるため、レース終了後の各艇を速やかに安全に、乗艇場へ導くのが主任務ですが、前方から水路審判を行い、事故発生時の救助の役割もします。

●招集員

招集場所にて資格審査（選手登録簿等の照会）を行い、待機させます。安全委員と協力して服装などの点検等を行います。（上半身裸では乗艇させない。タトゥーは長袖シャツ等を着用し見えないようにすることなど。呼び込み、人員数確認などは主目的ではありません）

レースに備え、各チームの選手は集合場所（八軒家浜）に各レース30分前に集合。なお、選手登録簿に記載されていない選手の乗艇は一切認めません。

会場でのチームの呼び出しはしません。時間内に集合していない場合は失格となります。

今年の日本選手権では、第1レース出場のチームは7時50分までに招集を完了し、8時05分までに乗艇してください。第2レース出場のチームは8時10分までに招集を完了してください。

また、招集場所で選手の体温が37.5度以上の場合は、乗艇を認めません。

●安全委員

競技規則に定める安全対策に従って、競技参加者の競技衣類等、競技者の安全に関する検査を行い違反チームと個人に指示及び指導します。

●検定委員

競技参加の全艇の規格を検査・測定し、安全装備の確認とパドル検定、バチ検定を行い違反の有無を確認します。マイパドル等の申請は予選終了まで受け付けます。

●配艇員

艇の乗艇場付近で艇番等を組合せ表に照合し、パドルや艇を配備します。クルーは割り当てられた用具を規定時間内に点検調整してください。原則として、その変更は重大な障害等があると競技役員が判断した場合以外一切要求できません。出艇後は変更の申し入れは不可。

※「レース成立」とは

全艇が違反なくゴールし、かつ龍尾も決勝線を越え、そのまま安全に乗艇場へ接岸できると審判長が認め、宣言した時をもってレース成立とする。よって、ゴール後急激な方向転換等で他の艇に危害を及ぼすなどの行為も「漕路妨害」として失格の対象となる場合があります。

本コースの特性からゴール後は必ず停船し、艇の安全を確認した後、反時計廻りで乗艇場へ戻ってください。レース途中で違反と判定されたチームでも完漕しないと失格（次レース進出を許さない）となります。レース成立時には白旗を競技本部にも揚げます。その後の抗議等による審議中は赤旗を揚げます。

◇発艇の要領

- ①各艇はスタート地点では所定の方法で艇を止め、スタートに備えてください。本コースではスタート地点の天満橋よりロープを垂らし、その先端を舵取りが保持し、スタートに備えます。
- ②発艇員がチーム紹介と確認のため、チーム名とレーン番のコールを行います。
- ③ドラを鳴らしたら、**全艇スタート位置へ移動します**。スタート地点の性質上、全艇そろって移動することが望ましい。またスタート位置につく際、故意に時間をかけたチームはペナルティーの対象となる場合があるので注意すること。
- ④太鼓手はスタート準備が完了したら、バチを太鼓上に置き静止させます。漕手はパドルを水中に浸けてもかまいませんが、「Attention」のコール以降にパドルを動かすとフライングとなります。スタート直前に不都合が生じたら、舵取りが手を挙げる大きく手を振り、太鼓手も2本（又は1本）のバチを高く上げて手を振って、発艇員に合図してください。（※スタート1分前のコールはありません）
- ⑤スタート合図は、発艇員の「Are you ready?」「Attention Go!」の掛け声と同時に大旗を振り下ろします。「Attention」と「Go」の間隔は状況に応じて連続する場合や5秒ほど空く場合があります。
- ⑥1回目のフライング発生時は再スタートします。各艇は速やかに艇を止め、再スタートに備えてください。2回目のスタートでもフライングが発生した場合は、レースはそのまま続行させ、フライングを犯したチームは自動的にそのレースの「最下位」とします。フライングしたクルーが完漕しない場合は、「失格」となります（次レース進出を認めない）。